

2014年度
事業報告

特定非営利活動法人
SEEDS Asia



SEEDS Asia (シーズアジア)とは？

SEEDS Asiaはアジア太平洋地域において、環境問題の改善や防災ならびに災害救援に関する事業を行い、これらの事業を通して、社会全体の持続可能な発展や人間の安全保障の確保に寄与することを目的としています。

組織の特徴

- 防災、環境、開発分野の若い専門家集団です。国籍もさまざまです。
- 学際的なアプローチで防災や環境問題に取り組んでいます。
- アツイところとクールなあたまで活動しています。
- アジア太平洋地域に特化した活動をしています。
- 神戸を拠点にしていますが、多文化な環境で仕事に取り組んでいます。
- 現地の社会経済状況、文化、政治的背景に配慮することを心がけています。
- 地元の知恵や知識・ノウハウを最大限利用し、地域にあった解決策を模索します。
- 現地カウンターパートと強い人間的ネットワークと相互信頼を築きます。
- 問題の発見とその解決策は当事者である地元の人々主導でおこないます。
- 研究、教育、プロジェクト実施が相乗効果的につながること目指しています。
- 持続的で革新的なアプローチを取り入れています。

活動分野

- コミュニティベースの災害リスク管理
- 防災と環境教育
- コミュニティベースの気候変動への適応
- 都市のリスク問題: 環境管理や防災（廃棄物管理、水資源管理）
- 人間の安全保障と持続可能な開発
- 貧困削減と防災
- 災害と環境管理に関する研究と政策対話

活動実施体制

SEEDS Asiaでは理事会が団体の方針や事業計画を策定し、必要に応じて顧問から事業に関するアドバイスを受けています。そして、計画に基づき、事務局が事業を実施しています。神戸の事務局本部の他に、実施事業各地にプロジェクト事務所を設置し、日本人スタッフがローカルスタッフとともに事業を実施しています。



もくじ

1.2014年度の主な活動報告

①海外・東北【人材育成事業】	3
②本部【知識の普及事業】	12
③本部【その他の事業】	13

2.決算報告書

①貸借対照表	15
②活動計算書	16



①海外・東北【人材育成事業】

プロジェクト名	災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクト
場所	ミャンマー
期間	2013年10月～2016年3月（継続中）
カウンターパート	ミャンマー工学会、ミャンマー国 社会福祉救済復興省・復興救済局
助成団体	JICA 草の根パートナー事業
受益対象者	対象学校教員、生徒、住民、政府・行政職員、防災・教育関連/機関

ミャンマーにおける学校、地域住民の防災能力（意識と知識、技術）の向上を図るとともに、防災活動が持続的に運営される仕組みをモデルとして構築することを目指した事業を、ヤンゴン地域、エヤワディ地域を対象として実施しており、第二年次の活動が無事に完了しました。

本プロジェクトの主な活動は、大きく2つに分けられ、一つは、「広げる支援」として、災害リスク地域における啓蒙活動として移動式防災教室を用いた基礎的な防災トレーニング機会の提供による意識・知識・技術の向上を広く普及する活動を実施しています。2014年度は本プロジェクトで目標としていた対象校30校を予定通り訪問し、学校教員と、区防災委員会メンバーを対象とした「防災トレーナー養成トレーニング」を実施しました（昨年度の30校分を合わせ、合計430名が参加）。また、本トレーニングを受けた教員から、生徒3,049名と、周辺住民274名が防災トレーニングを受講・参加しました。二つ目の活動は、「根付かせる支援」として、学校と地域が共に今後の防災活動を持続発展的に実施していくための「防災活動センター」を開設することです。その開設と継続的な運営ためには、人、モノ、場所が必要で、対象区の区防災委員会メンバーと学校防災委員会メンバーから選出された「防災リーダー」を、最優先地区（クンジャンゴン区/ラプタ区/ボガレ区）において選出し、地域の状況やニーズに応じたトレーニングを計画・実施しています。また、地域での啓蒙活動を継続できるよう、今年度に完成した「防災教育教材ツールキット」を防災活動センターや学校に設置しています。全部で6箇所の防災活動センターを設立することになっており、今年度中に5か所で開設に向けたトレーニングや協議が実施されており、クンジャンゴンでは既に第一号の防災活動センターが2014年9月に開設され、学校と地域が協同で防災活動を実施しています。クンジャンゴンの防災活動センターは高い評価を受け、2014年12月に教育省が主催した全国防災教育ワークショップで、教員による発表の機会が設けられ多くの教育関係者、防災支援団体にも共有されました。



生徒に災害の仕組みと対処の基本を教える教員



教育省・教育訓練局局長による挨拶と謝辞
全国防災教育ワークショップにて



プロジェクト名	災害マネジメント能力向上のための人材育成コンソーシアムプロジェクト
場所	ミャンマー
期間	2014年1月～2017年3月（継続中）
カウンターパート	国際連合人間居住計画 UN-HABITAT、ミャンマー国 社会福祉救済復興省・復興救済局
助成団体	アメリカ合衆国 国際開発庁(USAID)
受益対象者	政府・行政職員、学術機関、防災・教育関連団体、学校教員・生徒、住民

2015年1月より、米国の国際協力機関USAIDの支援により、ミャンマーの国家防災マネジメントトレーニングセンター（2015年9月エヤワディ地域ヒンダタ区に完成を目指し現在建設中）に関わる能力強化支援プロジェクトが開始しました。同プロジェクトは、UN HABITAT、UNDP、MRCS&ARC（ミャンマー赤十字&米国赤十字）、ACTED、そしてSEEDS Asiaによるコンソーシアムとしての協同プロジェクトです。防災に関わる政府職員のほか、京都大学との連携を通じてミャンマー国内の大学との連携や能力強化を行っていくこととなっています。

ご寄付及びプロジェクト外活動関連

- 大和ハウス株式会社様からのご寄付により、防災教育教材ツールキットの不足分15個の内、10個を作成しました。ご支援・ご協力、改めて感謝申し上げます。
- 2014年度は以下の団体からのご依頼で、ミャンマー工学会とともに移動式防災教室による防災トレーニングを実施しました。ご利用を有難うございます。

ワールドビジョン ミャンマー事務所様(2014年4月)

ミャンマー赤十字様(2014年6月)

ヤンゴン日本人学校様(2014年6月)

日生学園第二高等学校様(2014年8月)

BHNテレコム様(2014年11月)

日本財団様(2014年11月)

チャーチワールドサービス/YMCA様(2014年3月)



インドからのRoad to Sendai 撮影部隊と



プロジェクト名	クアンナム省沿岸地域における学校と地域での防災推進事業(1年次)
場所	ベトナム クアンナム省
期間	2013年12月～2015年12月
カウンターパート	クアンナム省教育訓練局(DOET)農業農村開発局(DARD)
助成団体	外務省 NGO 連携無償資金協力事業
受益対象者	対象学校の教員、生徒、コミュニティ住民、政府・行政職員、関連団体等

本事業では、ベトナム中部クアンナム省の沿岸地域6郡において、学校と地域の両方の側面から「統括・管理」と「実施・普及」の包括的な体制整備を目指すため、省及び郡レベルの教育訓練局及び農業農村開発局の32名の行政職員から成る「学校防災教育・コミュニティ防災検討会(以下、検討会)」、48名の学校教員から成る「教育ワーキンググループ(以下、E-WG)」及び36名の青年団/婦人会等から成る「コミュニティワーキンググループ(以下、C-WG)」の3つの活動を柱とした活動を実施します。まず1年次では、行政職員の能力向上及び学校防災教育に焦点をあて、2年次でその活動の成果をコミュニティ防災へと展開させていきます。

検討会メンバーによる活動としては、隔月で全6回の検討会が実施され、事業内容及びスケジュールの調整だけでなく、検討会向けのToT、E-WG及びC-WG向けのToT、防災ポスターコンテストさらには気仙沼市の教職員による東日本大震災の経験及び教訓の共有を通じ、彼ら自身の知識及び能力が向上されました。

E-WGメンバーによる活動では、メンバー全員を対象とした5日間のワーキンググループ(ToT含む)が実施され、11の防災教育プログラムについて知識と実践力が向上しました。その後、メンバーによって140回の防災教室が実施され、述べ2,381名の生徒及び178名の父兄が参加されました(2014年10～11月の2ヶ月間)。本事業開始前は、殆どの学校では画一的な防災教育(台風シーズンに注意を促す程度)の実施に留まっていたましたが、本事業を通じ、全メンバーが防災教育授業の教案及び教材の作成から実践に至る全ての工程を行えるようになりました。また、参加した父兄からは、「自分自身も知らないことを子ども達が知っていて驚きました。今後も是非継続して欲しい。」という意見があがり、各メンバーは、これまでベトナムにはなかった親子防災や授業参観の重要性についても理解を示していました。2年次では、これらの活動を維持しつつ、コミュニティ防災の活動だけでなく、学校と連携した活動も実施していきます。



気仙沼市における東日本大震災の経験/教訓の共有



親子防災で生徒と一緒に緊急避難袋を考える父兄



プロジェクト名	クアンナム省沿岸地域における学校と地域での防災推進事業(2年次)
場所	ベトナム クアンナム省
期間	2013年12月～2015年12月
カウンターパート	クアンナム省教育訓練局(DOET)農業農村開発局(DARD)
助成団体	外務省 NGO 連携無償資金協力事業
受益対象者	対象学校の教員、生徒、コミュニティ住民、政府・行政職員、関連団体等

本事業の2年次では、1年次で得た学校防災教育をさらに強化させるとともに、活動の中心をコミュニティへとシフトさせていき、最終的には6郡全域に防災教育活動が普及できるよう、能力の向上と実施体制の整備を図ります。C-WGメンバーによる活動は、メンバー全員を対象とした5日間のワーキンググループ(ToT含む)が実施され、E-WG同様に11の防災教育プログラムについて知識と実践力の向上を図りました。その後、メンバーによって年間活動計画と具体的な実施内容が作成され、これまでに実施したC-WGの活動は5地区になり、計175名の住民が参加しました(2015年1月及び3～4月の3ヶ月間)。参加した住民からは、「先日、赤十字が実施した研修より、有意義で楽しかった。」「講義と実践のバランスが良かった。」「災害について、今日初めて知ったこともあり、家族や隣の人にも共有したい。」「実際に避難する時、何を準備すれば良いかわかりやすかった。」などの意見があがりました。

なお、今後(2015年5月から)の予定には、各郡で住民を対象とした防災教育活動の他に防災キッズクラブ活動等が含まれており、総勢約1200名の参加を見込んでいます。これは、当初予定(地域住民180名、子ども144名、防災モデル地域以外の対象郡内の青年団・婦人会職員等600名)を大幅に上回ることから、C-WGの防災教育に対する意欲の高まりが感じられます。また、青年団及び婦人会は、彼ら自身の活動予算を毎年確保できることから、活動のテーマを防災教育とすることで、彼らの自助努力による防災活動の継続が見込まれます。これらの活動は、コミュニティ防災活動を管轄するクアンナム省農業農村開発局の評価も高く、クアンナム省内における実施継続についても期待が高まっています。本事業では、C-WGの知識と能力の更なる向上を目指し、地域のニーズに沿ったユニークな活動にチャレンジしていきます。



タウンウォッチングで情報共有する住民



砂を使った消火の実践



プロジェクト名	セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業
場所	フィリピン共和国(セブ州)
期間	2014年11月～2017年3月(継続中)
カウンターパート	フィリピン教育省第7地方事務所
助成団体	国際協力機構(JICA) 草の根技術協力事業
受益対象者	行政職員、対象学校教職員、生徒など

2014年、ジャパン・プラットフォームの助成を受け、2013年11月にフィリピン中部のビサヤ地方を襲った台風ヨランダ(国際名ハイエン)の被災地にて学校への学用品及び防災教材の配布や防災教育実施などの支援活動を実施しました。その際、現地教育行政機関である教育省への聞き取りにより、フィリピンの学校における防災教育推進のための体制・人材強化と、効果的な実践モデルの確立が必要であることが明らかになりました。

そこで、2014年11月より新しいプロジェクトがJICAの草の根技術協力事業として始動しました。本プロジェクトでは兵庫県教育委員会の協力のもと、教育省内において定期的な話し合いの場を設けたり、持続的に教員研修を実施したりすることで効果的な防災教育の導入を目指します。兵庫県教育委員会からフィリピンへ専門家を派遣したり、教育省職員の本邦研修時に兵庫県の防災教育実践現場を訪れたりすることにより、阪神淡路大震災発生から20年の防災教育実施の経験を持つ同県のノウハウと重要なビジョンの共有を図ります。

まずは教育省第7地方事務所内で防災教育実行委員会を設立し、年2回の話し合いにより同地方における防災教育の実施方針について話し合う場を設けました。同委員会には教育省に加え、市民防衛局やセブ州防災管理事務局、社会福祉開発省などの外部機関も招き入れ、多機関間の情報共有を促進します。続いて、教員の防災教育実施能力を向上させるためのトレーナーとして活動する防災教育コアチームを結成しました。コアチームは教育省第7地方事務所から2名、そしてパイロット校である防災教育モデル校を設置予定の地区事務所であるダナオ市、ポゴ市、そしてセブ州ダアンバンタヤン町から2名ずつの、合計8名で構成されます。能力開発研修を受講する予定のコアチームは、研修で培った知識とノウハウをモデル校の教員に伝達する役割を担います。

また、本プロジェクトでは兵庫県の経験から、地域との連携の重要性に焦点を当てています。学校は地域の一部であると共に、災害時には地域の人々を受け入れる避難所としての役割も持つからです。そこで、モデル校での教員研修においては教育省地区事務所だけでなく、各地方自治体の防災管理局とも連携を取って共に防災教育の発展を目指します。



台風ヨランダ被災地にある学校を訪問する
兵庫県教育委員会の専門家



第1回防災教育実行委員会にて挨拶をする
教育省第7地方事務所代表(当時)



プロジェクト名	移動式防災教室による防災知識の普及啓発事業
場所	フィリピン
期間	2015年1月～2017年1月
カウンターパート	マカティ市防災部・都市計画部
助成団体	外務省 NGO 連携無償資金協力事業
受益対象者	マカティ市職員、学校教員・生徒、および地域住民

フィリピン マカティ市における地域住民及び子どもの防災能力(意識と知識、技術)の向上を図るとともに、防災活動が持続的に運営される仕組みをモデルとして構築することを目指した事業が本年1月より開始、現在4ヶ月を経過し現在その第一段階としてバラングイ(フィリピンの最小行政区)を対象にタウンウォッチング及びハザードマップ作りを行っています。

本事業は、日本の防災経験を基に移動式防災教室をツールとして、マカティ市内地域住民の防災知識の向上と、防災活動の教育・啓発を行い、持続可能な防災活動を定着させる事を目的として行われるものです。本事業の実施にあたって、マカティ市 防災部(DRRM)、市都市計画部(UDD)、バラングイ担当課を中心に、コミュニティの防災活動の指導員として育成する人材が選出され、バラングイとの協働によるタウンウォッチング及びハザードマップ作りが開始されました。第一回目の東レンボ・バラングイ行政区ではバラングイ関係者及び地域住民 の評価も得、大きな成果を上げることが出来ました。今後、マカティ市内の33バラングイを対象に8月末を目標に継続してまいります。第2段階としては移動式防災教室のバラングイ及び市内の高校への展開ですが、タウンウォッチング・ハザードマップ作りを通して得た情報を移動式防災教室へ反映させるために、本年6月には市職員(指導員)がミャンマーの移動式防災教室を見学、現地での研修が予定されています。研修後、市職員指導員により本格的な移動式防災教室の製作が始まります。マカティ市及び市内各バラングイは防災に関するシステムは既にありますが、移動式防災教室の活用は本事業が初めての試みで、現行システムの改善・さらなる活用はマカティ市の皆様より、この移動式防災教室に大きな期待が寄せられております。持続可能な防災教育(特に地域住民と学校関係者、子ども)を実現させるための大きな柱として認識されつつあります。本年11月からの移動式防災教室展開を計画通り遂行するために現在、ミャンマー研修に参加する指導員5名の選出が行われております。2016年1月を本事業の一年次区切りとして、先に上げました活動を推進中でタウンウォッチング・ハザードマップ作りも回を重ねるごとに質の向上が得られるよう市職員、バラングイ関係者ととも日々検討中です。地域住民のみではなく学生及び保護者の防災教育及び持続可能な防災活動を根付かせるべく今後もマカティ市職員及び市内地域住民と一体となって事業成功に邁進してまいります。



東レンボ・バラングイ行政区の皆さんとマカティ市職員の方々



タウンウォッチングの様子



プロジェクト名	自然災害に対応した公共建築物の建設・改修能力向上プロジェクト
場所	バングラデシュ
期間	2013年7月～2015年7月
カウンターパート	バングラデシュ公共事業局 (PWD)
受益対象者	行政職員、住民、学校教員、生徒など

バングラデシュは風水害などの気象災害が多く、その対策は政府や住民の努力により改善されています。しかし、地震対策については一般的に意識が低く、特に都市部では耐震性を考慮していない高層建築が次々と建てられ非常に脆弱な状況となっています。これを改善するため、JICA が公共建築物の設計管理などの責任を持つ公共事業局を対象に耐震改修の能力を向上させる 技術協力事業を実施しています。SEEDS Asia は 2013 年の第 3 年次からプロジェクト広報として専門家チームに参加し、関係省庁 のみならず国民一般に広くプロジェクトを広報するとともに防災の必要性を理解してもらうための 活動を実施しています。

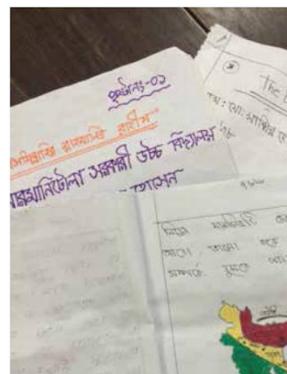
2014年度のプロジェクト広報は、これまで4本のプレスリリースおよび論説にて活動を紹介、広くメディアを通じて(述べ100記事ほど)多くの人に活動を紹介することができました。新しい試みとして、11月にバングラデシュ初となる「防災フィルムコンペ」を開催しました。20本の応募作品のなかから10編が、ダッカ市内の中央図書館で一般市民向けに放映されました。そこに暮らす人から見た防災や地震への備えのメッセージが、より多くの市民に届くこととなりました。現在プロジェクトでは更なる防災意識向上のためのテレビコマーシャルを製作中です。

また、防災の必要性を草の根で伝える活動として、昨年度より継続して学校での防災活動を行っています。生徒による生徒のための防災活動と基盤となる「防災クラブ」の設立。50名ほどのメンバーが毎月2回集まり、課題をこなしながら家族や友人と防災について語り合っています。課題はバングラデシュの災害に関するまとめ、新聞記事の切り抜き、学校のハザードマップ作成、タウンウォッチおよびタウンマップ作成、非常用持ち出し袋の作成、消防署での消火・救急救護活動などです。残りの活動期間では、全校生徒による初の避難訓練を予定しています。

2013 年 4 月に起きたダッカ郊外の縫製工場崩壊(ラナプラザ)に続き、2015年4月のカトマンズ大地震により、建物の安全性に対する意識は非常に高まってきていると言えるでしょう。バングラデシュでは、今後も「自然災害に対応した公共建築物の建設・改修能力向上プロジェクト」での技術移転が継続されます。また今後は円借款などのスキームを通じて、更にバングラデシュでの災害対応能力が上がることが期待されています。



防災クラブ発足式 - おそろいのTシャツを着て-



防災クラブメンバーのレポート



プロジェクト名	東日本大震災被災者支援事業
場所	宮城県気仙沼市
期間	2014年4月～2016年3月
助成団体	UMCOR、CWS Japan
受益対象者	対象地域の住民、教員、生徒、行政関係者、関連団体など

東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市において、昨年度から継続して、京都大学地球環境学舎とともに、気仙沼市の教員からなる教育研究員の防災教育研究に対して年間を通してアドバイザーとしてかかわりました。本年度の研究では、京都大学が開発した学校災害回復力調査(SDRA)を実施し、各学校の災害回復力について明らかにするとともに、把握された課題を解決するための防災教育について提案・実践を行いました。

また、これまでの防災教育の研究・実践を共有する目的で、昨年度開発した防災学習シートを冊子にし、気仙沼市内の全小中学校で配布しました。4月には、2013年の台風ハイエンで甚大な被害を受け、防災教育のニーズが高まったフィリピンから同国教育省次官補と教育省第7地方事務所の防災教育責任者を招へいし、防災教育の知見・経験を共有しました。9月には、アクサ・ユネスコ減災教育プログラム教員研修会にて講師となり、全国から選抜された20校30名の教員に対して、その知見・経験を共有しました。

昨年度に引き続き、地域との連携による防災教育の実践に関する支援も行いました。気仙沼市階上中学校および階上小学校の児童・生徒計60名に対して7月に実施された、コミュニティとの連携による宿泊型防災キャンプでは、気仙沼市教育委員会からの紹介で運営委員として企画の段階からアドバイザーとして参加しました。8月には、気仙沼市の鹿折および階上の両小学校6年生の生徒それぞれ2名ずつと教員、気仙沼市教育委員会、昨年度の教育研究員2名を対象に、愛媛県西条市の子ども防災キャンプ、兵庫県教育委員会、人と防災未来センターを訪問し、防災教育の実践に関する視察研修を行いました。9月からは、昨年に引き続き、気仙沼市立条南中学校第3学年の総合の時間におけるコミュニティ復興に関する授業の外部講師としてかかわりました。12月には、階上小学校で実施した防災まちあるき探検等の防災授業の計画・実施に際して外部講師としてかかわりました。

なお、昨年度の事業において立ち上げた、気仙沼市唐桑町における郷土芸能団体とのコミュニティ演劇の活動にも引き続きコーディネートの支援を行いました。役者14名、総出演者100名、皆唐桑町民からなる演劇公演として、12月には、新作「唐桑ものがたり 海の古道」を唐桑町にて上演、また2015年3月には、仙台市において「唐桑ものがたり 海の古道」を再演し、復興の意欲を創作劇で表現しました。



条南中学校でコミュニティ復興の授業を行うSEEDSスタッフ



戦いのシーンを熱演する唐桑町の伝統芸能団体の演者達



プロジェクト名	南気仙沼の津波被災地におけるコミュニティの創造的な復興活動の支援
場所	宮城県気仙沼市
期間	2014年4月～2015年3月
助成団体	大阪コミュニティ財団
受益対象者	対象地域の住民、関係団体など

東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた気仙沼市の南気仙沼地区において、住民参加による創造的なコミュニティ復興活動を支援しました。

昨年度に引き続き、9月には、被災した一景嶋神社に隣接する一景嶋公園で南気仙沼の住民による祭りの広報と当日運営を支援しました。当日は約100名の元住民が集まりました。

また、高齢化の進んだ地域で災害公営住宅が建設されることで、新たなコミュニティづくりをどのように行うか、課題を抱えている地域が気仙沼市内にいくつもあります。こうした災害公営住宅の建設に伴う受入れ側自治会の問題に対して、地元団体とともに、複数の受入れ側自治会長等との協議を行いました。9月には、気仙沼中央地区自治会連絡協議会(中央自治連)において、SEEDS Asiaの提案により、初めてグループディスカッション形式で、各自治会で起きている問題について話し合うことになり、SEEDS Asiaは、気仙沼で活動するNPO/NGOに協力を呼び掛け、協働でファシリテート支援を行いました。11月には、中央自治連で災害公営住宅の勉強会を行うことになり、SEEDS Asiaが講師派遣のコーディネートを行いました。また、2015年1月に完成し、気仙沼市で最初に入居が開始された南郷災害公営住宅のコミュニティづくりのため、SEEDS AsiaはNPO側のコーディネータとして、受入れ自治会の代表、社会福祉協議会(社協)と事前の検討会、勉強会を行うとともに、入居開始後の最初の交流会を企画しました。2015年2月、その交流会を入居者、周辺住民、社協、中央自治連、NPO・ボランティア等、総勢83名と協力し合って盛り上げ、成功に導きました。

さらに、7月～翌年1月にかけて、南気仙沼地区17行政区の自治会長・行政委員とともに、一景嶋公園の復興の提言づくりの準備会合を重ねました。そして2015年2月、一景嶋公園の復興に際して、追悼のための石碑の設置や、追悼行事を行うことを目的に「一景嶋公園の復興を考える会」の発足に至りました。3月8日、震災から約4年、SEEDS Asiaの支援により、南気仙沼で初めての住民による追悼行事を一景嶋公園の復興を考える会が行い、その様子は、当日夕方のNHKニュース全国版のトップで放映されました。3月には、一景嶋公園の復興を考える会によるワークショップを支援し、犠牲者の追悼や震災の記憶を語り継ぐための石碑を一景嶋公園に作るための活動を行うことが決定されました。



大いに盛り上がった南郷災害公営住宅の初めての交流会



震災から4年、南気仙沼で初の住民による追悼行事を支援

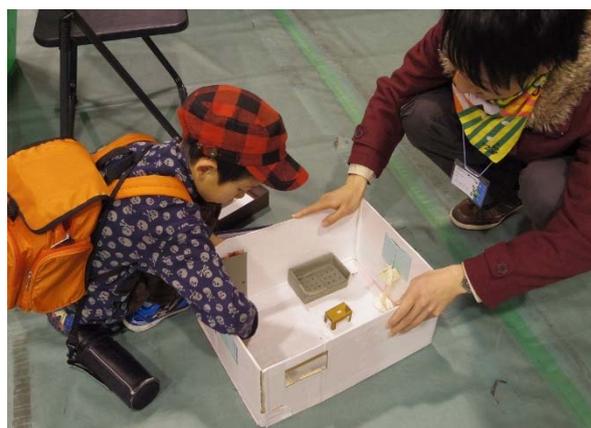


②本部【知識の普及事業】

プロジェクト名	防災イベント参加
場所	JICA関西 他
期間	2014年8月～2015年1月

2014年度は以下の2か所の防災イベントに出展し、防災クイズや、「地震だ！あなたのおうちは大丈夫？」(家具の固定について学ぶ)といったプログラムを実施しました。各イベントには子どもたちが多く参加し、非常時の行動や、家具を固定するなど防災の重要性を学ぶことができました。

- ① 2014年8月22日、23日、神戸市危機管理室で行われた防災イベント「防災カフェ」
- ② 2015年1月25日、JICA 関西、人と防災未来センターで開催された「いざ！美カエル大キャラバン」



プロジェクト名	ワン・ワールド・フェスティバル2015
場所	関テレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園
期間	2015年2月

2014年2月1日、2日には、弊団体4回目の参加となる「ワン・ワールド・フェスティバル」にブース出展しました。今年から会場が大阪市北区民センターに変わり、2日間でのべ26,000人が来場しました。SEEDS Asiaのブースでは、各事業地の活動写真や、ベトナム・ミャンマーで使用されている防災教材の展示を行いました。幅広い世代の来場者の方に、SEEDS Asiaの活動について知っていただく機会となりました。





プロジェクト名	第3回国連防災世界会議
場所	仙台市メディアテーク他
期間	2015年3月

2015年3月14日～18日に仙台市にて開催された、「第3回国連防災世界会議」に参加いたしました。開催期間中には、約15万人の方が来場されました。SEEDS AsiaはSEEDS Indiaなどとともに、SEEDS としてブースを出展し、各地の活動に関するパネルや防災教材等を紹介しました。また、期間中に開催されたパブリックフォーラムやシンポジウムに、SEEDS Asiaの理事長、事務局長、スタッフが登壇しました。



③本部【その他の事業】

広報活動	
場所	SEEDS Asia事務所
期間	2014年4月～2015年3月

SEEDS Asiaの活動を紹介し、より多くの方々からご支援いただくために、ホームページの定期的な更新、フェイスブックでの活動地からの情報発信、またニュースレターを隔月で発行しました。また、新しい寄付・会費決済のシステムとして、日本財団のご支援の下、特定非営利活動法人CANPANセンターが提供している「CANPAN」、ソフトバンクモバイルが提供している「かざして募金」を開始いたしました





③本部【その他の事業】

SEEDS Asiaでは、防災や国内外での活動から得た知見の共有を目的に、ご依頼に応じて、委員や講師を派遣しています。2014年度の講師派遣および委員就任実績は以下のとおりです。

- アクサユネスコ協会減災教育プログラム「教育研修会」（主催：日本ユネスコ協会）
- 横浜Contingency Plan研修（主催：JANIC）
- 気仙沼市階上地区防災キャンプ実行委員会委員（主催：気仙沼市教育委員会）
- 京都大学グローバル生存学フィールド研修受け入れ（主催：京都大学）
- JICA研修 講師（コミュニティ防災、防災意識の向上、教育行政、他）（主催：JICA関西）
- 国際開発プランニングコンテスト 審査委員（主催：国際開発プランニングコンテスト実行委員会）
- 気仙沼市でのバングラデシュ人本邦研修受け入れ（主催：京都大学地球環境学舎）
- 講義「防災の国際協力とNPO・NGO論」講師（主催：兵庫県立大学）
- ～20年を迎えて～世界に伝える阪神・淡路大震災の経験「若者・防災・未来」ワークショップ 話題提供者（主催：神戸RMC）
- 東北フォーラムフォークリエイティビティ 発表者（主催：東北大学）
- ESD実践モデル全国会議2014「防災教育・気候変動教育とESD」分科会 発表者（主催：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム）
- 第3回 国連防災世界会議 パブリック・フォーラム「東日本大震災と持続可能な防災教育シンポジウム」発表者（主催：仙台広域圏ESD・RCE 運営委員会）



特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人 SEEDS ASIA

(単位：円)

全社

平成27年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	4,480,549
現 金	55,800	前 受 金	54,038,927
普通 預金	12,440,748	預 り 金	125,030
現金・預金 計	12,496,548	未払法人税等	72,000
(その他流動資産)		流動負債 計	58,716,506
前払 費用	48,396,170	負債の部合計	58,716,506
その他流動資産 計	48,396,170	正味財産の部	
流動資産合計	60,892,718	【正味財産】	
【固定資産】		正味 財産	2,226,212
(投資その他の資産)		(うち当期正味財産増加額)	1,100,933
保 証 金	50,000	正味財産 計	2,226,212
投資その他の資産 計	50,000	正味財産の部合計	2,226,212
固定資産合計	50,000		
資産の部合計	60,942,718	負債・正味財産の部合計	60,942,718



活動計算書

特定非営利活動法人SEEDS ASIA

(単位：円)

自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日

I 経常収益の部			
1	受取会費	175,000	
2	受取寄付金	1,792,117	
3	受取助成金等	43,266,110	
4	事業収益	30,057,343	
5	その他収益		
	受取利息収入	14,254	
	雑収入	1,872,959	
	経常収入合計		77,177,783
II 経常費用の部			
1	事業費		
	(1) 人件費		
	給与手当	26,778,954	
	法定福利費	2,891,937	
	福利厚生費	11,706	
	(2) その他経費		
	旅費出張費	12,356,955	
	会議費	26,602	
	謝金	30,000	
	消耗品費	844,906	
	通信費	718,528	
	業務委託費	3,926,839	
	支払手数料	1,556,816	
	図書資料費	6,822	
	トレーニング費	304,359	
	印刷費	169,808	
	現地事業費	22,604,076	
	現地賃借費	2,177,344	
	水道光熱費	111,911	
	為替差損	1,951	
	事業費合計		74,519,514
2	管理費		
	(1) その他経費		
	旅費出張費		
	水道光熱費	89,796	
	地代家賃	816,000	
	保険料	12,490	
	租税公課	78,816	
	リース料	122,220	
	諸会費	166,724	
	管理費合計		1,286,046
	経常費用合計		75,805,560
	当期経常増減額		1,372,223
III 経常外費用の部			
1	過年度収益修正損	271,290	
	経常外費用合計		271,290
	当期正味財産増加額		1,100,933
	前期繰越正味財産額		1,125,279
	当期正味財産合計		2,226,212

SEEDS Asia 事務局

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本2-11-21-401

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Website: <http://www.seedsasia.org>

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>